

第33回 ISO/CASCO 総会 報告書

JSA 浜田、中川、千葉

1. 日時：2018年4月25日及び26日
2. 場所：メキシコ/メキシコシティ
3. 日本からの出席者：JSA 浜田、中川、千葉
4. 決議
 - **CASCO RESOLUTION 1/2018**：議事次第の採択
 - **CASCO RESOLUTION 2/2018**：決議起草グループの決定
 - **CASCO RESOLUTION 3/2018**：前回総会の議事録確定
 - **CASCO RESOLUTION 4/2018**：議長レポート
 - **CASCO RESOLUTION 5/2018**：幹事レポート
 - **CASCO RESOLUTION 6/2018**：CASCOロードマップ
 - ロードマップ案について、SR投票開始時期の修正が必要なため、総会后8週間のCIB投票で最終合意をすることで決定した。
 - **CASCO RESOLUTION 7/2018**：Priority achievement
 - Priority achievementに加える新たな項目として、発展途上国からの参加をより増やす戦略を作成することをCASCO事務局に要請し、CASCO事務局は、ISO/DEVCOと協力して検討することとした。
 - **CASCO RESOLUTION 8/2018**：副議長について
 - **CASCO RESOLUTION 9/2018**：IEC/CABレポート
 - **CASCO RESOLUTION 10/2018**：CPC報告
 - 各WGのエキスパート数をレビューし、ISO/IEC 17021-XXの開発及び改正に関して検討を進めることを要請。
 - **CASCO RESOLUTION 11/2018**：STAR及びTIG
 - STAR議長の交代について
 - **CASCO RESOLUTION 12/2018**：IAF-ILAC-ISOのジョイントグループ(JSG)
 - **CASCO RESOLUTION 13/2018**：スペイン語翻訳グループ
 - **CASCO RESOLUTION 14/2018**：CASCO WG報告
 - **CASCO RESOLUTION 15/2018**：内部リエゾンレポート
 - **CASCO RESOLUTION 16/2018**：外部リエゾンレポート
 - **CASCO RESOLUTION 17/2018**：2018年のCASCO関連会議スケジュール
 - **CASCO RESOLUTION 18/2018**：次回総会の会議日程
 - 2019年4月にケニア/ナイロビで開催が決定（2020年はドイツで決定済み）
 - **CASCO RESOLUTION 19-21/2018**：ホスト/議長/幹事への謝辞

5. 主な議論

(ア) 4月25日 ongoing working group sessions

CASCO 事務局及び CASCO 議長から挨拶（発展途上国からの参画の重要性についてリマインド。）EMA（メキシコ認定協会）と DGM（メキシコ規格協会）の共同ホストで開催している。共同ホストは、CASCO 総会では初めて。

主な議題/報告内容は次の通り。

① WG46 (ISO/IEC 17029、妥当性確認検証機関の要求事項)

<主な質疑応答や意見>

- コンベナ（ドイツ）からの報告。現在 WG では、既存の規格群とのバウンダリーの違いをどうするかを確認している。一般要求事項を示すのか、妥当性確認検証のプロセスにフォーカスしていくのか、まだ WG で検討している。現在 CD 段階であるが、引き続き多くの議論を要するとのことであった。
- CASCO Tool Box との関係では、「Confirmation of claims」にフォーカスしており、Attestation などの行為を示しているものではない。なお、適合性の表明（statement of conformity assessment）という活動は、妥当性確認検証の対象（object）とは考えられていない。
- CD17029 の適用範囲で、1.3 を WD から変更している。CD 投票期間中よく検討してほしい、とコンベナから発言があった。
- ISO/IEC 17029 の対象は具体的になにか？
 - Chain of custody, IT, cyber Security など挙げられるが、更なる広がりを見せたい。
- Proc33 や ISO/IEC17000 の用語及び定義など、既に決定しているものをなるべく使うようにしてほしい。
- 妥当性確認と検証の違いを明確にしてほしい。第 3 者に対して説明が難しい。また、妥当性確認と検証の方法（手法）も明確にしてほしい
- 両語の定義について、ISO 9000、ISO/IEC 17025 だけではなく多くの公的機関（国連含む）の文書にもたくさんある。整合性を考慮してほしい。
- 内容的に国際規格ではなく技術仕様書（TS）などにしたらどうか？
 - 既に国際規格（IS）として開発することが決まっているため、TS などにダウングレードはしない。

- 用語の整合性を確保するためにも、VIM を使うことを要請したい。Normative Reference に VIM を含む必要がある。
 - VIM の用語と齟齬はないということで、Normative Reference に入れることはできるであろう。メンバーに確認する。

② JWG/TC207/SC7 (ISO 14065、GHG の妥当性検証機関の要求事項)

<主な質疑応答や意見>

- 親規格が ISO/IEC 17029 で、子規格が ISO 14064 シリーズとしている。両者からのプレッシャー（整合性向上など）があるのはわかるが、ISO/IEC 17029 と ISO 14065 の整合性を高めるべき。ISO 14065 の中に ISO/IEC 17029 を Normative としていれるべきではないか？
 - ISO/IEC 17029 を引用することについて、ISO 中央事務局とも相談しながら WG で検討していきたい。Environmental financing や Sustainability report など子規格がたくさんある。プレッシャーは他にもたくさんある。
- 現在、200 以上の妥当性検証機関がある。17029 が妥当性検証機関のベース文書となり、14065 が sector –specific な妥当性検証に対するものとなることを期待したい。
- 適用範囲を拡大し、environmental information の assertion を含める

③ WG23 (Proc33、共通要求事項の改正)

内部手順だが CASCO Tool Box に大きな影響を与えるので改正にあたっては広くコンセンサスが必要であると考えている。

④ WG 44 (ISO/IEC 17025、ラボラトリの要求事項)

特になし。

⑤ ISO/IEC Directives の変更

CASCO 事務局から、Directives の変更点について報告があった。特に議論なし。

⑥ JWG CASCP/PC302 (ISO 19011、マネジメントシステムの監査のガイドライン)

<主な質疑応答や意見>

- 今回の改正では、他の MSS や ISO/IEC 17021-1 と整合させる

ためにリスクベースの考え方を導入している。また **virtual audit** なども取り入れた。

- タイトルが、**Auditing MS** となっているのはなぜか？**MS** だけでなく、**Process** などのあらゆる **Audit** に適用できるのではないか。
 - **Audit** の範囲をプロセスなどにも広げるかどうか議論があったが、プロセスは明確に定義されているわけではないため、あくまでも **MS** の監査に絞ることとした。

⑦ JWG 36 (ISO 22003、食品安全 MS 認証機関の要求事項)

ISO 22000、ISO/IEC 17021-1、および GFSI の版改訂に伴う改訂である。

議論は特になし。

⑧ WG45 (TR 17028、サービス認証スキームのガイドライン及び事例)

特になし

⑨ WG53 (TS 17033、エシカルラベルの原則及び要求事項)

ユーザーにとって何が大事かを考慮すべきという意見が出ている (プレゼンで使われた事例はさして問題ではないというコメントから)

議論は特になし

⑩ ISO/IEC 17021 シリーズ (-8, 1-10, -11)

ISO/IEC 17021-10 と ISO 45001 は同時発行したことが報告された。

議論は特になし

⑪ WG49 (ISO/IEC 17000、用語及び一般原則)

<主な質疑応答や意見>

- コンセプトダイアグラムを規格にのせるのか？
 - 載せない。コンセンサスはとれていない。
- 認定機関が CAB (適合性評価機関) であるかどうかを、再度明確にすべきである。認証が適合性評価 (CA) であり、認証機関を CAB と呼んでいる。認定が適合性評価の一環であれば、認定機関も CAB に入るはずである。
- 次のステップとして、CD と同時に NP 拡大投票をすることであるが、それが否決されたらどうなるのか？
 - 現状のまま (Scope 拡大せず) 開発を進める。
- Competence の定義を含めないという決定について
 - Competence と一言でいっても、多くの解釈があるため、規定化が困難であるため。

- ⑫ WG52 (TR 17032、プロセス認証スキームのガイドライン及び事例)
特になし
- ⑬ TIG (Technical Interface Group)
＜主な質疑応答や意見＞
- ココアのスキーム規格 (ISO 34101-4) の紹介が行われた。複数の適合性評価と関連があり、CASCO Tool Box の適切な利用にはどうすべきか。
 - 規格における法令や規制に関わる文言を記載する際の注意事項について、引き続き TMB レベルでも議論を進めることが報告。本件は、原則として規格の中で法令や規制に関わる文言を入れてはいけないというルールがあるが、適合性評価を含め多くの規格で法令や規制に関わる文言が散見されるため、TMB で議論が進められている。
 - ISO/IEC 17021-1 の Nuclear 分野での適用に関する要求事項が TC85 で新規提案が回付中。
 - AI、Big data, Cybersecurity など Industry4.0 に関連する新しい技術と CA との関係を検討することを BSI が提案。これに対し、TIG の範囲ではないため、CPC (又は STAR) に議論および次回報告を要請。

(イ) 4 月 26 日 CASCO 総会 Presentation of the working documents, updates on the liaison reports

主な議題/報告内容は次の通り。

- ① CASCO メンバーシップ
昨年と比べ、P メンバーが 5 か国増加している (途上国からの参加) リエゾンも増加傾向にある (Sustainability 関係、例えば ISEAL)
- ② 前回 CASCO 総会 (カナダ) の議事録
議事録はそのまま承認された。
- ③ 前回 CASCO 総会 決議のレビュー
ISOCS の担当部署で (Capacity Building)、Co-convenor の出張費用等の支援をする方向で検討を進めていることが報告された。
- ④ CASCO 議長レポート

<主な質疑応答、意見>

- 適合性評価に関わる「Do, Don't 文書」は規格開発者向けとのことだが、もっと広げてほしい（スキームオーナーなど）
 - 本件は TIG で議論している。各 TC でスキーム要求事項を作り始めてきた（適合性の表明の仕方など）。TIG はそのことに留意して、Guidance を提供することとした。これは要求事項を規定した文書ではない。この文書は、スキーム要求事項を作っている TC 向けである。
- 適合性評価に関して、途上国に対して Training をやってほしい。
 - COPOLCO、DEVCO、CASCO などの Policy グループで検討を進めている。

⑤ CASCO 幹事レポート

<主な質疑応答、意見>

- MSS の Complaint について、規格自体のクレームではない。主に認証がらみのクレームを受けている。
 - Complaint が出された統計を国別などに分けてほしい、適切であれば各 NSB にフィードバックできる。
- Complaint は、ISO9001 に関連するものが大半である。ISO9001 の認証取得＝製品そのものの品質を担保しているという認識違いからきているのであろう。多くのクレームは、ISO 中央事務局が仕事をしていないではないか、というような類なもので、これは ISO にとってはリスクが大きい。しかし、ISO としては、ウェブサイトなどで、ISO 中央事務局が認証について責任を負うものではないということは公表している
 - このクレームを出した組織を層別してほしい、特に、認証機関を、認定機関から認定を受けている組織と、受けていない組織に分けて分析してはどうか。

⑥ MSS survey

IAF から、ISO9001/14001:2015 年版への認証の移行が、規格発行後に月に 2%程度しか進んでいなかったため、IAF としてもサーベイを行ったという情報があった。しかし、最近になって移行は進んでいるとのこと。

また、IAF が近い将来この MSS survey を行う予定である（ISO から引き継ぐのか不明）。

⑦ CASCO Roadmap

- 会議前に回付されていたロードマップから変更があった。
ISO/IEC 17040 は 2019 年に SR 開始で、ISO Guide 68 を 2018 年に SR 実施する予定とすることが CASCO 事務局から提案された。
➤ この文書を承認するために、CIB をセットしたほうがよい。

決議事項：修正案をメンバーに回付し、8 週間投票を行う。

⑧ IEC/CAB レポート

特になし。

⑨ ISO 事務局長レポート

特になし。

⑩ スペイン語翻訳タスクフォース

特になし。

⑪ CASCO Priority achievement

Educational tool box を作るプロジェクトに対して重要視している。
ジュネーブ大学で適合性評価を含む標準化のコースをもっているが、
19 名程度の生徒が参加しているとのこと。

⑫ 副議長について

ISO 理事会によって決まったことであり、特に議論なし。

⑬ CPC レポート

特に議論はなかったが、CASCO Tool box という単語がよく分かりにくいという発言がでた。これに対し、CASCO 事務局として、Tool box という言葉は引き続き使っていくことが報告された。

⑭ STAR レポート

5 か年の Stakeholder Engagement 戦略において TG では消費者の意見を反映させたドラフトを策定する。

Procurement セクターへのアプローチをサポートしてくれるボランティアを募集中である。

ISO/DEVCO、COPOLCO との連携を強化している

特になし。

⑮ JSG レポート

特になし。

⑯ リエゾンレポート

特になし。

⑰ 次回総会スケジュール

2019 年はケニア/ナイロビ（万が一の場合は、ジュネーブ）

2020年はドイツ（ベルリン）

以上